LGBTQ

社内における支援

日本のコカ・コーラシステム全6社で同性パートナーに配慮した就業規則・福利厚生を整備

日本のコカ・コーラシステム全6社は2021年5月までに、同性パートナー※にも対応した福利厚生および就業規則の整備を完了しました。各社では現在、従業員およびその同性パートナーを法的婚姻関係にある配偶者と同等に扱い、慶弔休暇や特別休暇を取得できるよう制度を導入・運用しています。また日本コカ・コーラでは、LGBTQ当事者への理解促進と支援の表明を目的とした社内啓発イベントを継続的に実施しています。2021年11月には「Inclusion Month」の一環として、国際NGOヒューマン・ライツ・ウォッチ東京委員の柳沢正和氏と人事本部長パトリック・ジョーダンによるオンライン対談を開催。またLGBTQ啓発の日である「ピンクフライデー（11月20日）」には社員に対してピンク色のマスクやカップケーキを配布しました。

※戸籍上の性別が同じパートナー

柳沢氏とパトリック・ジョーダンによるオンライン対談

ピンクフライデーにはマスクやカップケーキを配布しました

社外に向けた活動

同性婚、LGBT平等法への賛同

コカ・コーラシステムでは、2020年11月から日本国内における同性婚の法制化（婚姻の平等）に賛同する企業を可視化するキャンペーン「Business for Marriage Equality（BME）※」への賛同を表明しました。また日本コカ・コーラは、日本でのLGBT平等法の制定を目指すキャンペーン「Equality Act Japan-日本にもLGBT平等法を」にも賛同を表明しています。

※「Business for Marriage Equality」（略称：BME）は、日本で活動する3つの非営利団体による、日本における同性婚の法制化（婚姻の平等）に賛同する企業を可視化するためのキャンペーンです。Marriage For All Japan、LLAN、虹色ダイバーシティの3団体が共同で運営しています。

「プライドハウス東京」協賛

日本コカ・コーラは2020年11月より「プライドハウス東京※」へ協賛しています。プライドハウス東京は、LGBTQのアスリート、その家族や友人そして観戦者や地元の参加者が、自分らしく多様性をテーマとした大会を楽しめるように活動するとともに、東京オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、次世代のLGBTQの若者が安心して集える、常設の居場所づくりに取り組むものです。

※「プライドハウス東京」は、セクターを超えた団体・個人・企業が連帯し、東京オリンピック・パラリンピックが開催されるタイミングを契機と捉え、LGBTQなどのセクシュアル・マイノリティに関する情報発信を行う、期間限定のホスピタリティ施設を設置し、多様性に関するさまざまなイベントやコンテンツの提供を目指すプロジェクトです。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は閉会となりましたが、今後も施設は継続されます。

work with Pride Gold 2021

PRIDE指標

日本コカ・コーラは、職場におけるLGBTQに関する取り組みを評価する「PRIDE指標2021※」において、2021年最高位であるゴールドを受賞しました。

※PRIDE指標は、企業等の枠組みを超えて、LGBTQにとって働きやすい職場づくりを実現することを目的に、任意団体のwork with Prideが2016年に策定した指標です。“PRIDE”の各文字に合わせた、「Policy（行動宣言）」「Representation（当事者コミュニティー）」「Inspiration（啓発活動）」「Development（人事制度、プログラム）」「Engagement/Empowerment（社会貢献・渉外活動）」の5つの評価指標に分類され、企業や団体は各指標の獲得点数により表彰されます。